

## 平成23年度 第2回 地域緩和ケアリンクスタッフ研修会 アンケート集計結果

2012. 2. 20 (月)

荘内病院 3階 講堂 18:30~20:00

### 【内容】

#### 1. 緩和ケアに関する事例発表 居宅介護支援センターおおよま 主任居宅介護支援専門員 堅岡真由美氏

最初に多職種連携に必要なこととして、①同じ物差しを使うこと ②役割分担 ③目標の共有、というチームアプローチの重要性について話された。事例は認知症を有する悪性骨腫瘍患者で、通所介護サービスとショートステイを利用したケース。「わたしのカルテ」での情報共有が多施設間で「本人の代弁者」となって活用されたこと、困った時に医療職と連絡がとれることが施設での安心につながった。ショートステイやデイサービスなどの看護・介護職の人員不足が、医療依存度の高いケースの受け入れの障害になるので、体制上課題となる。

#### 2. 緩和ケアに関する講義 「がん終末期患者の症状の経過と緩和ケア」

鶴岡市立荘内病院 内科・緩和ケアチーム 医師 和泉典子 先生

がん終末期患者の症状の経過には、余命の時期によって出現する特徴的な身体症状、精神的苦悩（家族を含め）があることの理解が必要であり、それに対するケアについて具体的な説明があった。余命が月単位の時は、「身体症状が出現し、将来について揺れ動く患者・家族へのケア」、週単位では「実存的苦悩と家族の予期悲嘆へのケア」、日～時間単位では、医療者が家族に死に行く過程で診られる身体の自然な変化と「看取りの看病のコツ」を説明しているDVD(ステップ緩和ケアムービー：これからどうなるのでしょうか?)を参考にしながら、学ぶことができた。

【参加者】 69名

【アンケート協力者】 60名 (回収率86.9%)

【職種内訳】 ケアマネジャー 56%、介護福祉士 10%、看護師 22%、介護士・介護員 3%、相談員 5% で前回より看護師の参加が多かった。

【参加者の所属】 居宅介護支援事業所 55%、特別養護老人ホーム 12%、訪問介護事業所 8%、デイサービス7%、介護老人保健施設・グループホーム・病院 各3%、地域包括支援センター 2%、有料老人ホーム 2%、で、介護施設やサービス提供事業所からの参加が前回より多かった。

【リンクスタッフかどうか】 リンクスタッフ 43%、リンクスタッフ以外 47%、無回答 10% でリンクスタッフ以外の参加が半数を超えた

【参加状況】 初めての参加者が 22%と多かった。

【今後の参加意志】「とてもそう思う」「そう思う」が93%

【研修会の時間】 「ちょうどよい」93%、「長い」3%。「短い」2%だった

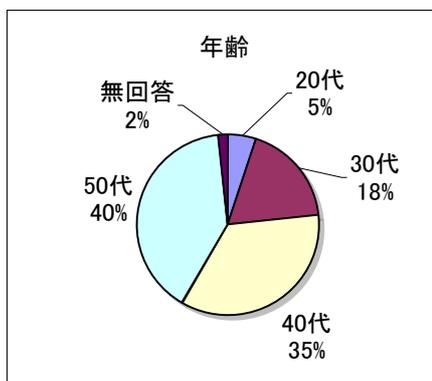
【事例発表や講義の有用性や理解度】

事例発表が「とても役に立つ」「役に立つ」と回答した参加者は**87%**、講義が「とても役に立つ」「役に立つ」と回答した参加者は**98%**、講義が「とてもわかりやすかった」「わかりやすかった」と回答した参加者は**98%**と、今回も研修会の評価が高かった。

### I 参加者の属性

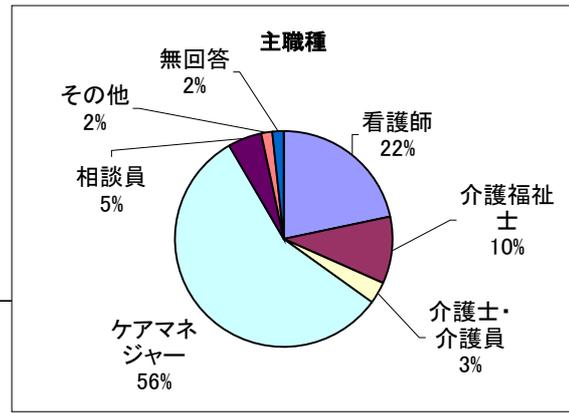
年齢

1	20代	3
2	30代	11
3	40代	21
4	50代	24
5	無回答	1
total		60



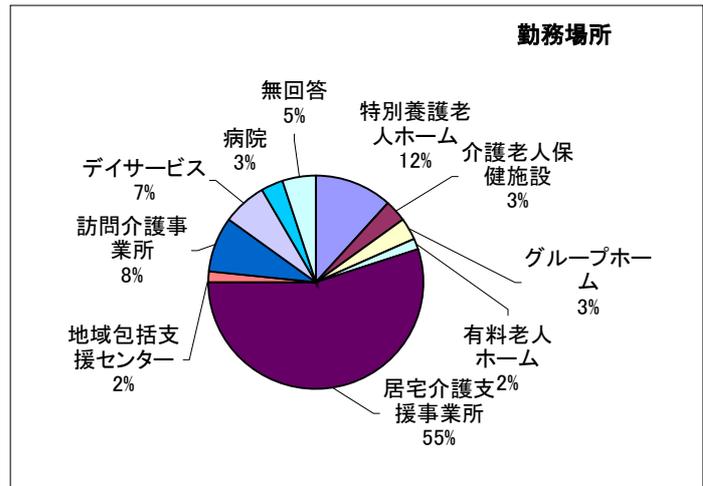
主職種

1	看護師	13
2	介護福祉士	6
3	介護士・介護員	2
4	ケアマネジャー	34
5	相談員	3
6	その他	1
7	無回答	1
		60



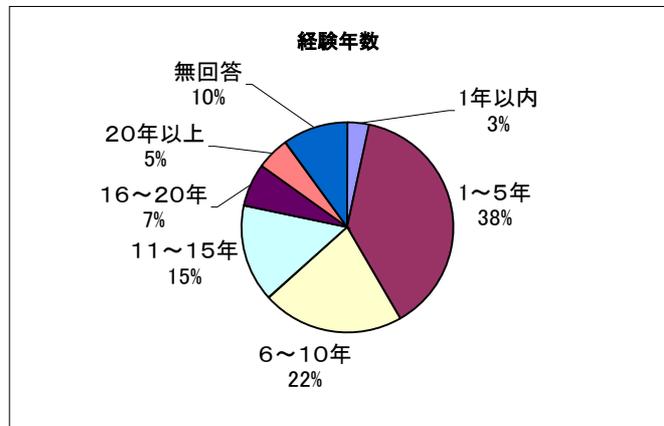
勤務場所

1	特別養護老人ホーム	7
2	介護老人保健施設	2
4	グループホーム	2
6	有料老人ホーム	1
7	居宅介護支援事業	33
8	地域包括支援セン	1
9	訪問介護事業所	5
10	デイサービス	4
11	病院	2
12	無回答	3
total		60



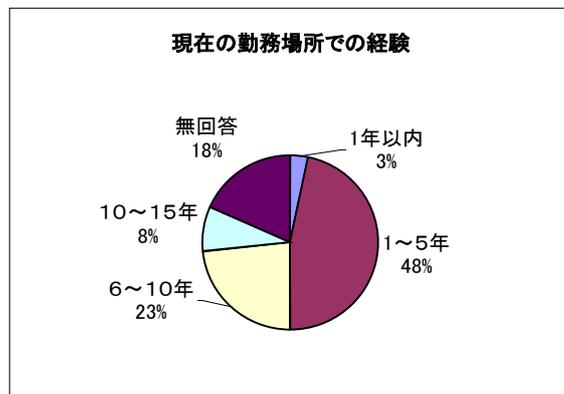
経験年数

0	1年以内	2
1	1～5年	23
2	6～10年	13
3	11～15年	9
4	16～20年	4
5	20年以上	3
?	無回答	6
total		60



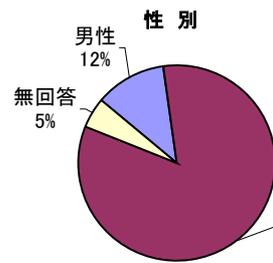
現在の勤務場所年数

0	1年以内	2
1	1～5年	28
2	6～10年	14
3	10～15年	5
?	無回答	11
total		60

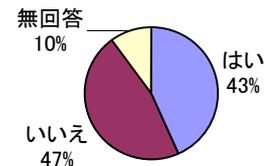


性別

1	男性	7
2	女性	50
3	無回答	3
total		60



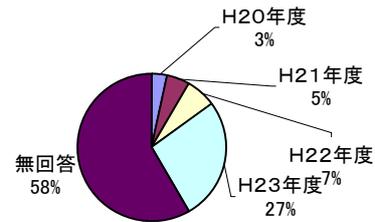
リンクスタッフですか？



リンクスタッフで

1	はい	26
2	いいえ	28
?	無回答	6
total		60

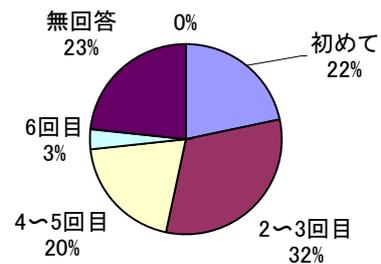
いつからリンクスタッフになりましたか？



いつから？

1	H20年度	2
2	H21年度	3
3	H22年度	4
4	H23年度	16
?	無回答	35
total		60

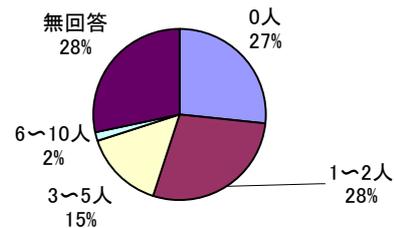
リンクスタッフ研修会への参加は何回目ですか？



参加回数

1	初めて	13
2	2〜3回目	19
3	4〜5回目	12
4	6回目	2
?	無回答	14
total		60

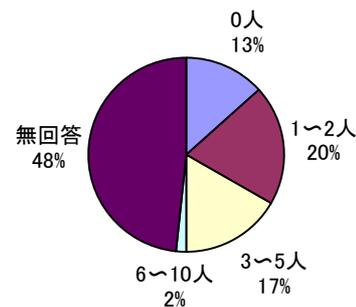
昨年度関与して亡くなったがん患者さんの数



関与したがん患者の  
の看取り数

1	0人	16
2	1〜2人	17
3	3〜5人	9
10	6〜10人	1
	無回答	17
total		60

昨年度あなたが関与した施設内・在宅看取りの数



関与した看取り数

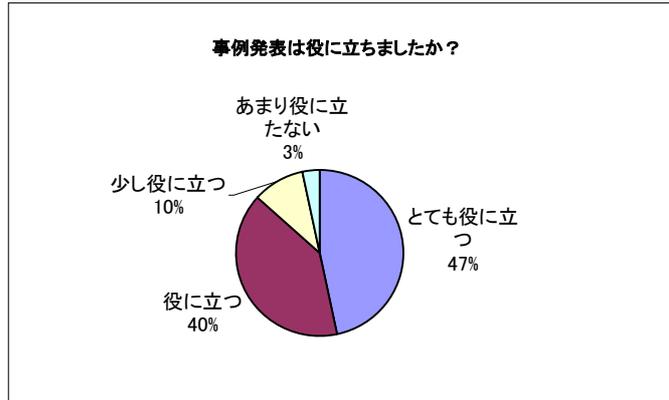
1	0人	8
2	1〜2人	12
3	3〜5人	10
4	6〜10人	1
5	無回答	29
total		60

II 研修会の内容に関する有用性や理解度

①事例発表 おおやま居宅介護支援センター 主任居宅介護支援専門員 堅岡真由美氏

①有用性

1	とても役に立つ	28
2	役に立つ	24
3	少し役に立つ	6
4	あまり役に立たな	2
total		60

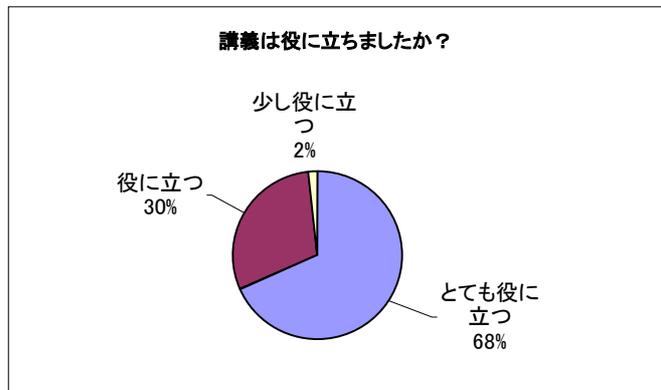


②講義 がん終末期患者の症状の経過と緩和ケア

鶴岡市立荘内病院 内科・緩和ケアチーム 医師 和泉典子 先生

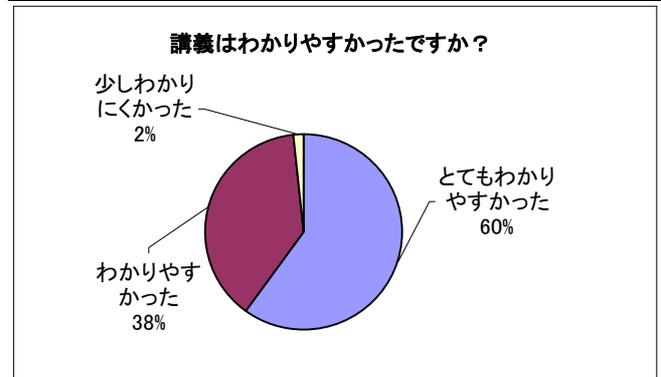
②有用性

1	とても役に立つ	41
2	役に立つ	18
3	少し役に立つ	1
?		
total		60



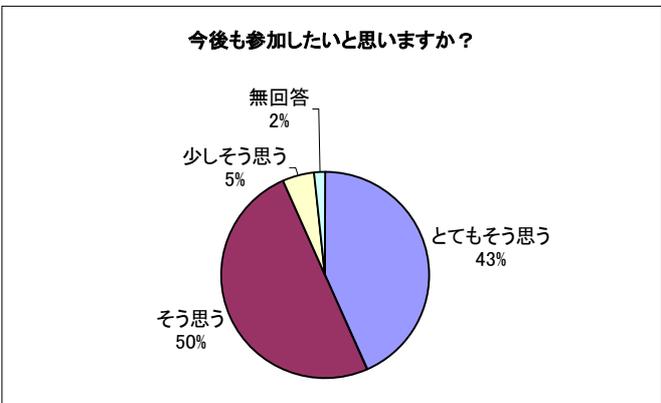
②理解度

1	とてもわかりやす	36
2	わかりやすかった	23
3	少しわかりにくか	1
?		
total		60



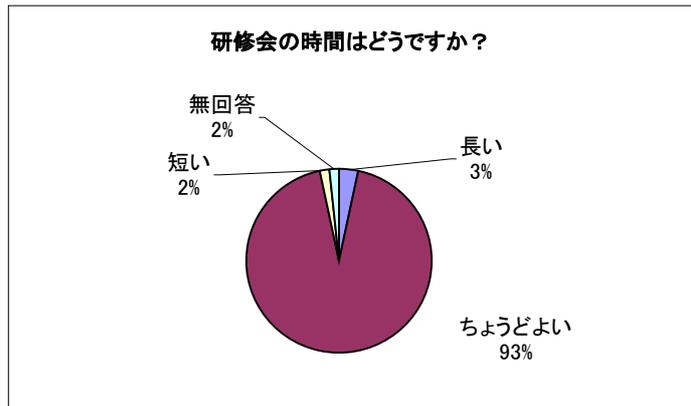
III 地域緩和ケアリンクスタッフ研修会に、今後も参加したいと思いますか?

1	とてもそう思う	26
2	そう思う	30
3	少しそう思う	3
?	無回答	1
total		60



#### IV 地域緩和ケアリンクスタッフ研修会の時間はどうですか？

1	長い	2
2	ちょうどよい	56
3	短い	1
?	無回答	1
total		60



#### V リンクスタッフ研修会で扱ってほしいテーマや、参加しての感想、こんな場にしてほしいという要望等

- ・今までは患者・家人の質問にあいまいに答えているところもあったが、今後は自信を持って答えることができます。とても勉強になりました(病院、看護師)
- ・事例検討を今後も聞いていきたい(ケアプランの参考になるため) (居宅介護支援事業所、ケアマネジャー・看護師)
- ・荘内病院で緩和ケア対応のショートステイがあったら在宅での福祉利用も増えると思う。ケアマネも少しではあるが、家族一緒に喪失感を味わいます。そこから脱する方法ってあるのでしょうか？心のどこかでずっとひきづっていたりします(あの時あの判断でよかったか・・・など) (居宅介護支援事業所・ケアマネジャー)
- ・ターミナルケアの自分の知識不足を知りました。具体的な自然の経過を認識できて良かったです。(訪問介護事業所、介護福祉士)
- ・神奈川だったか、医師、看護師、ケアマネ、ヘルパーが一緒の施設があった。その方のお話を聞いてみたい。(居宅介護支援事業所、ケアマネジャー)
- ・ターミナルケアの講義もしていただけると嬉しいです。(特別養護老人ホーム、介護福祉士)
- ・医療職以外の方も多く参加していますが、やはり「患者」という言い方になじめないと思います。「患者」＝「ご利用者様」とか「アドバンスディレクティブ」＝「意思確認」などなど、まずは共通の言語が必要ですよね。介護職(ケアマネも含む)にばかり、医療分野を勉強しろ！というのはあまりにもつらい・・・他にもいろいろ抱えているのだから(生活苦、介護者不足、虐待・・・) そう思うとたくさんのツールが必要になり、医療って以外に後回しになるんです。(特別養護老人ホーム、看護師)
- ・現場の方からのお話がとても力になりました。(訪問介護事業所、ヘルパー)
- ・これからも緩和ケアについて情報をしっかりつかみ、私達にできることを考えたいと思う。がん末期にあたる患者さんに、また家族に不安や苦痛を少しでも軽減できるためのアイテムを増やしていきたいと思います。(介護老人福祉施設・看護師)
- ・サービス事業所も参加してもらおうと思います。(居宅介護支援事業所、ケアマネジャー)
- ・どうしても看護師の研修会と思われる。介護職は入りがたいと思っている人が大多数です。(有料老人ホーム、看護師)
- ・和泉先生の「生の声」がとても貴重です。これからも学んでいきたいと思います。(居宅介護支援事業所、ケアマネジャー)
- ・本人・家族の価値を理解することの大切さ。知らないことは不安を増幅させると言うことが理解できました。鎌田寛先生(「がんばらない」の著者)(の講演が聞きたい) (居宅介護支援事業所、ケアマネジャー)
- ・自宅で死を迎えたい、看取りたいというのが、本人・家族の本音だと思います。その希望をかなえられるよう、これからも医療と連携を図っていききたいと思います。(デイサービス、看護師)
- ・緩和ケアの実際は何度か見っていますが、こういった形でお話を聞くのは始めて、とても興味深く参考になった研修でした。今後ともこういった研修よろしく願います。(特別養護老人ホーム、相談員)
- ・第一部の5W1Hや役割分担、第二部のコミュニケーションの取り方や病気の予測というのは、がん患者だから特別ではなく、どの病気の方でも同じように考えていく必要があるかと思います。特に病気の事は知識がないので学んでいきたいです。ありがとうございました。(地域包括支援センター、ケアマネジャー)

#### ○質問

「認知症のある障害者」というキーワードについて具体的な本人の状態を教えて欲しいと思いました。支援者が安心して介護に向かう言葉となった理由について。(居宅介護支援事業所、ケアマネジャー)